

---

## 平成 30 年度 交通に関する吉部地区・高俣地区意見交換会 議事要旨

日 時：平成 31 年 2 月 22 日（金） 10：00～11：30

場 所：むつみ農村環境改善センター

事務局：萩市、むつみ総合事務所、日本工営㈱

ご参加：住民の皆様 29 名



### 1. 開会

事務局：開会の挨拶（省略）

### 2. 挨拶（萩市商工政策部長）

山本部長：（省略）

### 3. 議事

（1）（資料 1、2）

事務局：資料 1、2 を説明（省略）

意見交換：

参加者：むつみには現在、歯科と内科はあるが、眼科はない。萩市のぐるっとバスで、希望者に対し、（眼科のある市街地まで）送迎をお願いしたい。年齢を重ねると、膝や腰が痛く、杖がないと歩けない状況などもある。ぜひお願いしたい。

また、バス運賃では、現状吉部から山口市内までの料金が高いが、山口市の赤松バス停から乗車すると、片道 300 円で行けると聞いている。萩市においても、バス運賃を安くしてほしい。

事務局：ぐるっとバスの旧萩市内への直接運行の要望は各地でも伺っているが、これを実施すると、路線バスの利用者が少なくなって、事業者の経営が成り立たなくなり、路線バスを維持できなくなってしまう。

体の不自由な方への対応は、福祉施策と連携して検討したい。公共交通の利便性を高めると共に、コミュニティでの送迎などの方法も含めて検討が必要である。

---

---

市街地までの移動について、現状は、ぐるっとバスのデマンド便で、自宅から吉部バス停まで行き、路線バスに乗り継いでいただく。帰りも同様に、路線バスで吉部バス停に到着後、ぐるっとバスのデマンド便に乗り継いでいただく。

また、周辺部のバス運賃が高いとの切実な話は聞いている。山口市は、高齢者に対し100円での定額運賃を設定しているが、萩市でも利用者負担の在り方を検討したい。吉部から萩地域まで往復2,000円以上で、周辺部の方には大きな運賃負担となる。福祉施策と連携して、萩市全体の利用者負担も考えながら進めていきたい。

参加者：4、5年ほど前、委員会を立ち上げて、全く同じアンケートを実施して、公共交通を検討した記憶がある。同様にコンサルタントもいた。その結果、未だに変化がなく、代り映えがない、また調査をして、同じ結果となるのではないかと懸念している。

事務局：公共交通の計画は、5年ぐらいで見直しており、前回も実施している。前回の結果が役に立っていないとのことだが、今回は、高齢者の移動手段の確保に重きを置き、議論頂いている。周辺部は大変な状況であり、須佐・田万川ではタクシー事業者がいなくなる事態も起きている。ぐるっとバスのタクシー化は難しいが、高齢者の足の確保のため、運行方法を改め、利便性を高める取り組みを進めている。

利用者負担のあり方も、周辺部の方には負担が大きいことから、幹線と支線及びその結節や役割分担も踏まえて検討する。

公共交通の利用者は減ってきており、交通事業者だけでは対応できないところもあるので、住民主体の自家用有償旅客運送の方法も考えられる。行政と事業者と住民3者が協力して、自宅から目的地までの移動手段の確保や利用しやすい交通体系を検討する。

具体的な取り組みについては、長期的な検討が必要なものもある。担い手の確保も課題である。実証運行やぐるっとバスの見直しも含めて、取り組んでいきたい。交通事業者とも相談しながら進める。

前回の結果が出ていないのは申し訳ないが、高齢者の足の確保は大きな課題なので、しっかりと計画を作り、できるところから取り組みを進めていく。ご協力、ご支援を頂きたい。

参加者：吉部から萩への移動者が多いが、バス運賃は高い。また、ぐるっとバスで直接旧萩市に向かわせることは難しいとのこと。例えば、(路線バスの)事業者をいっそ無くして、コミュニティバスに補助金を充当して市が運行する方法も考えられないか。無理して赤字路線を維持することも無いため、検討頂きたい。

ぐるっとバスも、例えば100円徴収するなど、有料化を検討頂きたい。

しっかりとした住民へのサービスが行き届いた取り組みを検討して頂きたい。

事務局：市からは毎年1億4千万円ほど、公共交通の確保のために支出している。現状のバス路線や運行ダイヤ等、ニーズに応じた運行の見直し、あるいは代替となる交通手段の検討も一つの柱だと思われる。必要なものは必要とした上で、住民の方に密着した交通体系を検討する。

ぐるっとバスの有料化は、萩市全体の利用者負担の在り方として検討したい。

参加者：バスの運転手の話では、吉部から山口へ向かう際、赤松バス停(山口市内)から乗車すると、300円だと聞いている。昭和30年頃は、バスは押し込んで乗るほど客が多かった。お米の太ったもみを見るような状態だった。この頃のような利用状況になると嬉しい。

事務局：山口市の施策は高齢者に対し、バス運賃100円としている。萩市も公共交通の利用者負担の軽減を検討する。アンケート結果では、将来的には高齢者の8割の方が公共交通を利用すると回答している。これらを踏まえて、利用しやすい交通体系を作っていく。

参加者：今は車を運転しているが、15年先は分からない。免許返納も考えるし、高齢者の方

---

---

では間近に返納する方もいる。タクシーチケットを配布するなど、萩市では免許を安心して返すことができる取り組みはあるのか。

高齢者の外出では、家から施設までの送迎が大事になる。意見交換会も送迎がないと来れない人もいる。検討いただきたい。

事務局：既に免許返納者も増えており、今後ますます進んでいく。市でも、簡単かつスムーズに公共交通に移行できる手立てを検討したい。返納した人が安心して乗れる公共交通で、また返納を促すことができる仕組みを検討する。

また、自宅からバス停まで遠いなどの個別の実情もあるので、デマンド方式のように、自宅から目的地まで行けるような交通体系を検討する。高齢者の送迎ニーズが多いことも十分認識し、どういうネットワークが良いのか検討しながら、進めたい。

参加者：山口市内へ行くために、バスに乗って、三谷駅で電車に乗り換えるが、接続ダイヤが合わず、電車を乗り過ごすことがある。昔は電車とバスのダイヤが合っていたが、今はあっておらず苦慮している。

事務局：公共交通機関で移動する際に目的地までいけないことは、重要な問題である。鉄道と路線バスの乗り継ぎ環境も検討したい。

参加者：バスは渋滞や信号停車で遅れることもあり、電車の時間に間に合わず、おいていかれることもあった。不親切と感じた。5分早いと乗れるのに、現状はダイヤが合っていない。もう少し考えていただきたい。

事務局：ダイヤ改正も、バス事業者とJRの各社で実施しているため、萩市からも接続ダイヤ案などを作ることで、双方の調整協議を図りたい。

事務局：むつみ地域の吉部タクシーの利用状況はいかがか。

参加者：時々通院で利用する。また、むつみの診療所に行く際に使うこともある。

参加者：三谷駅までタクシーを利用することもある。現状のバス路線で、1本でも2本でも良いので、鉄道との接続を検討していただきたい。

参加者：むつみが実家となる子ども世代が帰省する際、タクシーの利用がある。帰省者にとって、交通手段が無いのも不憫なので、タクシーがあるとありがたい。

事務局：タクシーは自由に動くことができるが、須佐・田万川では、事業者が撤退する事態が生じている。過疎地域で事業を継続することは難しく、全国的にも課題となっている。このような背景で、NPO法人等が自家用有償旅客運送を実施している例もあり、これらも含めて検討したい。

参加者：デマンド便にするにしても、大きい車両だと、高齢者にとって乗り降りが難しい場合がある。また、むつみは小さい道も多いので、小回りの聞く車両の配置を検討して頂きたい。

事務局：現状のぐるっとバスは10人乗りの車両だが、他地域の意見交換会でも同様の意見があった。自家用有償旅客運送の制度により、自分の車を利用して、軽自動車で送迎することも可能である。担い手の確保の観点でも、自家用車の利用は有効である。ご指摘を踏まえ、ぐるっとバスの車両や自家用有償旅客運送なども踏まえて検討したい。

参加者：この計画は5年ごとに見直すとのことだが、結論はいつごろか。検討メンバーは旧萩市内の方ばかりで、周辺地域のことがいい加減にならないようにして頂きたい。また、萩市内で自家用有償旅客運送を実施している例はないか。

周辺地域で生活するためには、現状は車が必要なので、自ら運転できるよう、なんとか健康を維持している。

市長との対話会では、免許返納や交通事故との関係について話した。長くハンドルを握るため、できるだけ事故を起こさないよう気を使っている。免許を返納すると、不自由になる。移動することで、健康寿命も伸びているため、体が動くうちは、ハンドルを握ることも重要であることを考えて頂きたい。

---

---

事務局：今回の計画づくりの予定は、今月は意見交換会を各総合事務所管内で行っており、4月には萩地域をまわる。計画本体の策定期間は今年12月を目標に進めている。また本計画の期間は2020年から2024年の5年間となり、短期的な事業、長期的な事業を整理して、進めることを考えている。

高齢者の移動手段の確保も、萩市全域で検討したい。萩市公共交通会議の委員も各地域の代表に出席頂いており、これらの方々としっかり議論して進める。

自家用有償旅客運送は、全国的な事例があり、山口市も自治会の連合会で、料金を徴収しながら実施している例もある。萩市にはまだ実施例はない。将来的には、きめ細かい対応が必要なので、導入を検討したい。

80歳過ぎて元気でおられることは大事なことである。元気な高齢者が、他の高齢者の支援をすることも、元気になる秘訣と個人的には思う。移動できる事で外出機会が増え元気でいられる。

#### 4. 閉会

事務局：様々なご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上